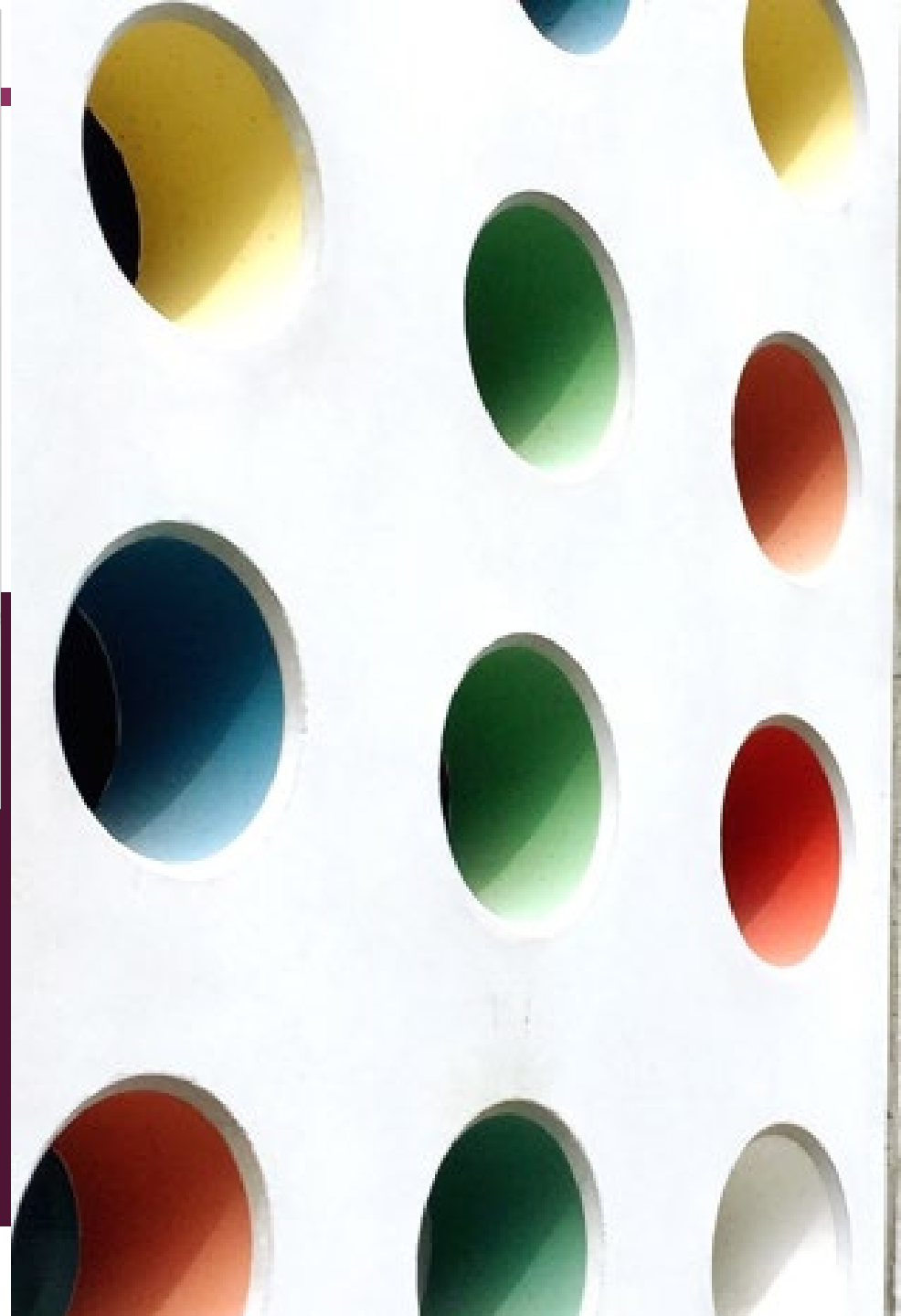




PSALM 81

2022.10.6

木曜 ASHUREY CLASS



テキスト (前半)

【新改訳2017】詩篇81篇 指揮者のために。ギテトの調べにのせて。アサフによる。

- 1 喜び歌え 私たちの力なる神に。喜び叫べ ヤコブの神に。
- 2 ほめ歌を歌い タンバリンを打ち鳴らせ。麗しい音色の豎琴を 琴に合わせてかき鳴らせ。
- 3 新月と満月に 角笛を吹き鳴らせ。私たちの祭りの日に。
- 4 これは イスラエルのためのおきて ヤコブの神のための定めである。
- 5 神が エジプトの地に向かって出て行かれたとき
ヨセフのうちに それをさとしとして授けられた。
私は まだ知らなかったことばを聞いた。
- 6 「わたしは 彼の肩から重荷を除き 彼の手を荷かごから離してやった。
- 7 苦しみの中であなたは叫び わたしはあなたを助け出した。
わたしは 雷の隠れ場からあなたに答え メリバの水のほとりで あなたを試した。セラ

テキスト (後半)

- 8 聞け わが民よ。わたしはあなたを戒めよう。
イスラエルよ わたしの言うことをよく聞け。
- 9 あなたのうちに 異なる神があってはならない。異国の神を拜んではならない。
- 10 わたしは あなたの神 【主】である。わたしが あなたをエジプトの地から連れ上った。
あなたの口を大きく開けよ。わたしが それを満たそう。
- 11 しかし わたしの民はわたしの声を聞かず イスラエルは わたしに服従しなかった。
- 12 それでわたしは 彼らを頑なな心のままに任せ
自分たちのはかりごとのままに歩ませた。
- 13 ああ ただ わたしの民がわたしに聞き従い イスラエルがわたしの道を歩んでいたなら。
- 14 わたしはただちに 彼らの敵を征服し 彼らに逆らう者に 手を下したのに。
- 15 【主】を憎む者どもは主にへつらうが 彼らの刑罰の時は永遠にまで至る。
- 16 しかし主は 最良の小麦を御民に食べさせる。
わたしは岩から滴る蜜で あなたを満たし足らせる。」

テキスト (前半)

【新改訳2017】 詩篇81篇 指揮者のために。ギテトの調べにのせて。アサフによる。

- 1 喜び歌え 私たちの力なる神に。喜び叫べ ヤコブの神に。
- 2 ほめ歌を歌い タンバリンを打ち鳴らせ。麗しい音色の豎琴を 琴に合わせてかき鳴らせ。
- 3 新月と満月に 角笛を吹き鳴らせ。私たちの祭りの日に。
- 4 これは イスラエルのためのおきて ヤコブの神のための定めである。
- 5 神が エジプトの地に向かって出て行かれたとき
ヨセフのうちに それをさとしとして授けられた。(※「ヨセフ」 = 「イスラエル」)
私は まだ知らなかったことばを聞いた。
- 6 「わたしは 彼の肩から重荷を除き 彼の手を荷かごから離してやった。
- 7 苦しみの中であなたは叫び わたしはあなたを助け出した。
わたしは 雷の隠れ場からあなたに答え メリバの水のほとりで あなたを試した。セラ

付記1「アサフ」はどういう立場の人か

【新改訳2017】 I 歴代誌6章

- 31 契約の箱が安置所に納められた後、ダビデが【主】の宮の歌を受け持たせるために立てた人たちは、次のとおりである。
- 32 ソロモンがエルサレムに【主】の宮を建てるまでは、この者たちが会見の天幕である幕屋の前で、歌をもって仕え、それぞれ定めにしたがって奉仕を受け持った。
- 33 奉仕をした者たちとその一族は次のとおりである。ケハテ族からはヨエルの子、歌い手ヘマン。 . . .
- 39 ヘマンの兄弟アサフは、彼の右側に立って仕えた。43 . . . はゲルシヨムの子、 . . . である。
- 44 左側には、彼らの同胞メラリ族の、キシの子エタンがいた。 . .

●レビ族の系譜には大きく分けて、祭司の系譜による「**特別職**」とレビ族の三つの系列(ケハテ族、ゲルシヨン族、メラリ族)による「**専門職**」とがあります。後者は前者を支えていく役割を担っています。祭司だけでは礼拝をすることはできません。祭司とレビ人と言われる者たちの存在が重要でした。それゆえ、歴代誌ではレビ人の系譜を丁寧に記しています。

●詩篇73～83篇はすべてアサフによるものです。



付記2 なぜ「ヨセフ」なのか

●5節「ヨセフのうちにそれをさとしとして授けられた」とは、どういうことでしょうか。それは、イスラエルがヨセフに置き換えられているのです。一つ前の詩篇80篇には、それが同義的パラレリズムとして置かれています。

【新改訳2017】詩篇80篇1節

イスラエルの牧者よ 聞いてください。

ヨセフを羊の群れのように導かれる方よ 光を放ってください。

ケルビムの上に座しておられる方よ。

●エジプト時代においては、ヨセフはイスラエルの民の長子としての権威が与えられていました。

1. 「仮庵の祭り」に関する詩篇 ①

●3節に「**私たちの祭りの日に**」とあります。この祭りの「新月」と「満月」は、第七の月の第1日目と15日目のことです。最初の角笛は一年の中でも最も大いなる祭りの日が近づいたことの知らせであり、15日目は『仮庵の祭り』を始まることを告げる角笛です。「喜び歌え」「喜び叫べ」「ほめ歌を歌い タンバリンを打ち鳴らせ」とあるように、仮庵の祭りの基調は**爆発的な喜び**なのです。

●イスラエルにおける三大祭は「過越の祭り」「五旬祭」「仮庵の祭り」です。「過越の祭り」と「五旬祭」はすでに実現した祭りですが、「仮庵の祭り」はまだ実現していない祭りなのです。これらの祭りは、神のご計画を啓示する重要な祭りなのですが、これをキリスト教は全く無視しています。何故そうなってしまったのでしょうか。私たちの神は「ヤコブの神」ではないのでしょうか。ヤコブの神が定められた祭りであるなら、教会もこの祭りの意義を無視できないはず。教会はイスラエルに接ぎ木された存在なのですから。

1. 「仮庵の祭り」に関する詩篇 ②

●「過越の祭り」と「初穂の祭り」はすでに実現しています。なぜなら、「最後のアダム」であるイエシュアが十字架の死と復活を通して「いのちを与える御霊」となり、私たちの霊を再生してその中に入ること、私たちを「新しく造られた者」(New Creature)としてくださったからです。

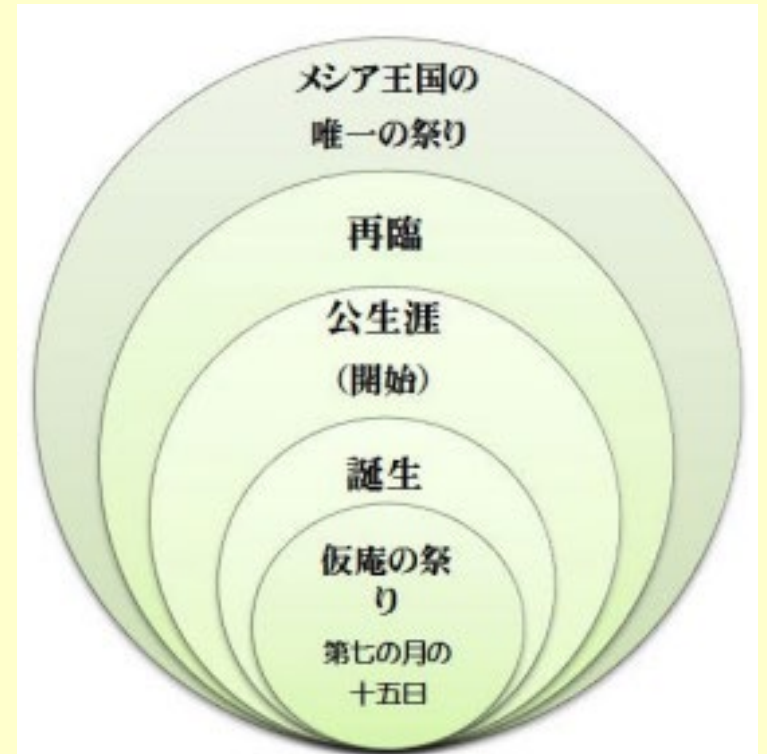
●さらに五旬節の時に、上からの力としての聖霊によるバプテスマをも与えてくださっています。これらはすでに包括的になされているのです。内においては御霊がとりなし、外においては「イエシュアの御名」というすべての名にまさる名を与えられた方が神の右の座に着いて、すべての主権と権威を足もとにおきつつ、私たちが圧倒的な勝利者となるべくとりなしておられます。

●私たちの「内」と「外」におられるイエシュア・メシアこそ、天と地を結ぶ唯一の方です。三一の神は相互内在、同時同存の神です。すでに「神の国はあなたがたのただ中にある」と同時に、この地上に神の国が実現するのはこれからのことです。そしてそれを期待するときこそ「仮庵の祭り」なのです。

1. 「仮庵の祭り」に関する詩篇 ③

●メシア王国における祭りは一つしかありません。それが「仮庵の祭り」です。この祭りは神が定められた祭りです。今日の教会が、この祭りの真の意義を知り、そこに隠されている神のご計画の実現を待ち望むことが求められています。

●イエシュアは、神のご計画について「たとえ」で語られました。なぜイエシュアは「たとえ」で語ったのでしょうか。それは隠すためなのです。それが、5節の「私はまだ知らなかったことばを聞いた」ということばなのです。聖書の神は「隠される神」なのです。7節にも「わたしは雷の隠れ場からあなたに答え」とあります。神は大切な事柄を隠して試される方です。求めなければ開かれないようにされているのです。



2. 「まだ知らなかったことば」

● 5節後半「私はまだ知らなかったことばを聞いた。」（【新改訳2017】）

（新共同訳）「わたしは思いがけない言葉を聞くことになった。」

（岩波訳）「私の知らぬ言語を私は聞く。」

（口語訳）「わたしはかしこでまだ知らなかった言葉を聞いた。」

（関根訳）「わたしの知らない言葉を私は聴く。」

（バルバロ訳）「私は、耳なれない言葉を聞く。」

● 「ことば」（言葉、言語）と訳されたヘブル語は「サーファー」（ קִרְפָּיִם ）で、本来は「くちびる」、口で発音される「話しことば」を意味します。LXX訳ではこの「ことば」に「グローサ」（ $\gamma\lambda\omega\sigma\sigma\alpha$ ）の訳語をあてています。「グローサ」は新約聖書では「異言」のことですが、ここでは「**心をかたくなにするメッセージ**」を意味します。なぜなら、7節に「雷の隠れ場からあなたに答え メリバの水のほとりであなを**試した**」とあり、また12節にも「彼らを**頑なな心のままに任せ**」とあるからです。神が語られることばの真意を尋ね求めるのでなければ、それを悟る道は閉じられてしまうという意味です。

3. 「隠される神」 ①

●7節の「わたしは雷の隠れ場からあなたに答え」に目を留めたいと思います。

ラアム ベセーテル エエンハー

אֶעֱנֶךָ בְּסִתְּךָ רָעַם

雷の 隠れ場の中で わたしはあなたに答えた

●聖書の神は「隠される神」です。「隠れる」というヘブル語は「サータル」(סָתַר)ですが、名詞は「セーテル」(סֵתֶר)です。それは「隠れ場」(shelter, refuge)とか、「ひそかな奥深いところ」(secret place, hiding place)と訳されており、それは同時に「主の臨在されるところ」でもあり、「御翼の陰」とも訳されています。モーセもダビデも、預言者エリヤもイエシュアも、みな「隠れ場」を知っていました。モーセは40日40夜、主との親密な時を過ごしたことで顔が光を放つほどになっていたのです。主の「隠れ場」(Secret Place)に身を置くことは、神の特別な光、臨在の光がその人を覆うのです。

3. 「隠される神」 ②

●イエシュアの場合、聖霊に導かれて、断食をしながら40日40夜を過ごされました。その断食においてイエシュアは神のことばの中に隠され、神のことばに専心することで武装されたと言えます。それは敵であるサタンの誘惑に勝利する力を与えられたことで証明されました。そして神からの力ある油注ぎを受けて、御国の福音の宣教を開始されたのです。

●神は、神の隠れ場の中に過ごす人々を通して、霊的な閉塞感の状況を打ち開かれます。「神の隠れ場の中に過ごす」ことを「祈りの生活」とも言いますが、それは、私たちの考えるような「日々のデボーション」とは異なります。神が求めておられるのは、多くの時間を神とともに過ごすことはもちろんのことですが、むしろ神が定めておられるご計画とみこころを糧として食べることなのです。そういう意味での「隠れ場」なのです。ダビデはこのほか「隠れ場」を大切にしました。ダビデの霊性の源泉はこの「隠れ場」にあります。とりわけ、「災いの日には必ず、・・幕屋の奥深く(ᠠᠠᠵᠤ)に隠してくださる(ᠠᠠᠵᠤ)」(新共同訳)とあります。

3. 「隠される神」 ③

● 「**隠れ場**」という思想を新約的に表現するとどうなるでしょう。それは「**キリスト**」ということになります。とすれば、「**隠れ場であるキリストのうちに隠れる**」とはどういうことになるでしょう。それは「**キリストにとどまる**」ということです。

旧約

・「**隠れ場**」
(セーテル)に
隠れる

新約

・「**キリスト**」に
とどまる

● 「**隠れ場**」は神による保護、守りを意味するだけではありません。それ以上に、神とのより親密なかかわりを示すことばです。旧約の「**隠れ場**」は新約では「**キリスト**」です。「**隠れ場に隠れる**」とは、新約的には「**キリストのうちにとどまる**」と同義なのです。イエシュアは言われました。「人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです」(ヨハネ15:5)。

3. 「隠される神」④

●私たちが神の「隠れ場」の外に出るようなことがあれば、多くの実りは約束されません。私たちの周りには、神の「隠れ場」に隠れるよりも、それを妨げようとする多くの娯楽や楽しみがあります。それ自体はなんら悪い物ではなくても、神によるいのちの世界の外に私たちの関心を持たせるものが多くあります。たとえば、私たちはこの世の動きを知るためにニュースを聞く必要があると思い、テレビをつけます。しかしニュースをどれほど多く聞いたとしても、霊的ないのちはそこからは何一つ与えられません。

●神に用いられた人々の多くが神の隠れ場に身を置いたことを思い起こして、それをより大切にすることをもち、その隠れ場により多くの時間をもつようにする工夫をしなければなりません。積極的な隠遁への神の招きの声をあなたの霊の中で聞くことはないでしょうか。その声を聞く者は幸いです。その者を通して神のいのちは開花されていくと信じます。

テキスト (後半)

- 8 聞け わが民よ。わたしはあなたを戒めよう。
イスラエルよ わたしの言うことをよく聞け。
- 9 あなたのうちに 異なる神があってはならない。異国の神を拜んではならない。
- 10 わたしは あなたの神 【主】である。わたしが あなたをエジプトの地から連れ上った。
あなたの口を大きく開けよ。わたしが それを満たそう。
- 11 しかし わたしの民はわたしの声を聞かず イスラエルは わたしに服従しなかった。
- 12 それでわたしは 彼らを頑なな心のままに任せ
自分たちのはかりごとのままに歩ませた。
- 13 ああ ただ わたしの民がわたしに聞き従い イスラエルがわたしの道を歩んでいたなら。
- 14 わたしはただちに 彼らの敵を征服し 彼らに逆らう者に 手を下したのに。
- 15 【主】を憎む者どもは主にへつらうが 彼らの刑罰の時は永遠にまで至る。
- 16 しかし主は 最良の小麦を御民に食べさせる。
わたしは岩から滴る蜜で あなたを満たし足らせる。」

4. 「神の満たし」の約束 ①

●仮庵の祭りの意義は、過去の神の恵みを回顧し、神の約束の成就を待ち望むことです。イスラエルの民を荒野から約束の地へ導いた神が、再び、さまよえる民を主ご自身のもとへ導き、約束したすべてのものを与えようとしておられることを期待すると同時に、神の約束に耳を傾け、新しい心をもって神に聞き従うことなのです。聞き従う者に注がれる神の祝福を、この詩篇81篇では次のように表現しています。

(1) **あなたの口を大きく開けよ(命令)**。わたしがそれを**満たそう(約束)**。

※ 「口を大きく開けよ」 ・ ・ 「大いに期待せよ」

※ 「満たす」 ・ ・ ・ ・ ・ 「マーレー」 (מֵלֵךְ)

(2) 主は**最良の小麦を御民に食べさせる(約束)**。

わたしは**岩から滴る蜜であなたを満ち足らせる(約束)**。

※ 「最良」 ・ ・ ・ ・ ・ 「ヘーレヴ(脂肪)」 (בֶּהֱמוֹן)

※ 「満ち足らせる」 ・ ・ ・ ・ 「サーヴァ」 (שָׂבַע)

4. 「神の満たし」の約束 ②

●イスラエルの民は、秋の二週間に渡って行われる新年、大贖罪日、仮庵の祭りにエルサレムへ巡礼することが定められていました。それは強制的であり、参加しなければ神の民とみなされませんでした。神の民として神の恵みに対する当然の義務でした。大変と思う人もいれば、その時こそ楽しみな人もいたはずですが。しかし長い間に渡る仮庵の祭りが終わって帰途に着くとき、果たして民の心が満たされていたかは分かりません。おそらく、華やかな祭りの後に訪れるある種の空しさを抱えながらの帰途であったかもしれません。

●イエシュアも仮庵の祭りが最高潮に達する「祭りの終わりの大いなる日」に、「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります」(ヨハネ7:37, 38)と言われました。祭りの後に感じる空しさ、たましいの渴きを前提にしての招きのことばでした。

4. 「神の満たし」の約束 ③

●イエシュアを信じる者にはだれでも神の賜物としての聖霊が与えられています。しかし「聖霊が与えられること」と「聖霊に満たされること」とは全く違います。もしその心が「聖霊に満たされている」なら、当然のように神の良い事柄が、神のすばらしいことばや愛が溢れるようになってくるはずでです。初代教会の人々が「聖霊に満たされた」とありますが、それが初代教会の標準でした。ですから、たとえ迫害にあったとしても、壁に突き当たったとしても、彼らは内から流れてくる神の霊の力に押し出されるようにして、新しい神の出来事がなされていったのです。

●もう一度、詩篇81篇10節の「**あなたの口を大きく開けよ。わたしがそれを満たそう**」という神の約束に目を留めましょう。私たちの主イエシュア・メシアが啓示して下さった父なる神は、与えることを喜びとする神です。しかもその与えるものは豊かであり、満ち満ちて溢れるばかりなのです。使徒パウロは「すべての必要を満たす神」を経験していました。

4. 「神の満たし」の約束 ④

●パウロの手紙の中にはそうした表現が随所に溢れています。たとえば、エペソ書では、「あわれみ豊かな神」(2:4)、「大きな愛」(同)、「限りなく豊かな御恵み」(2:7)、「栄光の豊かさにしたがって」(3:16)、「私たちの願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方」(3:20)、「私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。」(ピリピ4:19)など、栄光の富、豊かさはすべて「神の愛」を言い換えたものです。

●天の父は豊かに与えることにおいて、神としての風格(Majesty)を持っておられる方です。しかも良いものを与えたくてしかたがない方です。詩篇34篇10節b「主を求める者は、良いもの(「トーヴ」טוֹב)に何一つ欠けることがない」とあり、詩篇65篇4節には「私たちは、あなたの家の良いもの(טוֹב)、あなたの宮の聖なる宮の聖なるもので満ち足ります(「サーヴァ」שָׂרָא)」とあります。

4. 「神の満たし」の約束 ⑤

●詩篇81篇にある「マーレー」(מִלֵּךְ)と「満ち足らせる」と訳された「サーヴァ」(שִׁוֵּץ)の二つの組み合わせが、詩篇107篇9節でも使われています。「まことに主は、渴いたたましいを満ち足らせ(שִׁוֵּץ)、飢えたたましいを良いもので満たされた(מִלֵּךְ)。」

●「主の恵みで地は満ちている」(33:5)とあるように、主はいつも良いもので満たそうとしているのです。詩篇80篇8～9節では、イスラエルの民をぶどうの木にたとえて、「あなたはエジプトからぶどうの木を引き抜き、異邦の民を追い出して、それを植えられました。その木のためにあなたが地を整えられたので、それは深く根を張り、地の全面に広がりました(מִלֵּךְ)」とあります。それゆえ捕囚の民たちは、主の大いなるみわざを見て、「私たちの口は笑いで満たされ(מִלֵּךְ)、舌は喜びの叫びで満たされた(מִלֵּךְ)」(126:2)のです。私たちの霊とたましいを満ち足らせ、私たちの口と舌を賛美で満たすことのできる方は、神だけです。

今回のまとめ

●イスラエルにおける三大祭は「過越の祭り」と「五旬祭」と「仮庵の祭り」です。「過越の祭り」と「五旬祭」はすでに実現した祭りですが、「仮庵の祭り」はまだ実現していない大切な祭りなのです。これらの祭りはすべて神のご計画を啓示する祭りなのですが、キリスト教会はこの「仮庵の祭り」を全く無視しています。その代わりに「クリスマス」を祝っています。何故そうなってしまったのでしょうか。「仮庵の祭り」はイエシュアの誕生と公生涯の開始、終わりの日における地上再臨の時です。にもかかわらず、それを待ち望む祭りがなされていないのは不自然だと思いませんか。